

ReBOSSIS-J[®]

CLINICAL CASE REPORT

JA愛知厚生連 安城更生病院
整形外科、リウマチ科 脊椎・脊髄外科センター長
新城 龍一先生

略歴

2002年 福井医科大学 卒業
2002年 豊橋市民病院 整形外科
2007年 長野赤十字病院 整形外科
2009年 名古屋大学医学部 整形外科 大学院
2013年 名古屋大学医学部附属病院 整形外科
2014年 安城更生病院 整形外科

専門医・認定資格

日本整形外科学会認定 整形外科専門医
日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会認定 脊椎脊髄外科指導医



腰椎前方後方同時固定術に綿形状人工骨ReBOSSIS-Jを使用した症例（60代）

側方経路椎体間固定術（以下LLIF）では、ケージ内には β -TCPやヒト脱灰骨基質（DBM）を使用している。後方固定術の際は脊柱管除圧術、椎間関節切除術を施行すると、後方の骨移植母床がなくなり局所自家骨移植が十分に行えなくなることがある。当科では、綿形状人工骨ReBOSSIS-J 0.5g を用いて橋渡しし、脊柱管にも落ち込まないように母床を作り、その上に粉碎した局所骨を置くことで十分量の自家骨移植が可能となっている。

手術は左からのL3/4/5 LLIFを行い、後方はL3/4/5除圧と両側椎間関節切除を行い、L3-5の後方固定術を施行。L3-5椎弓間にReBOSSIS-Jと局所骨を移植した。



綿形状人工骨

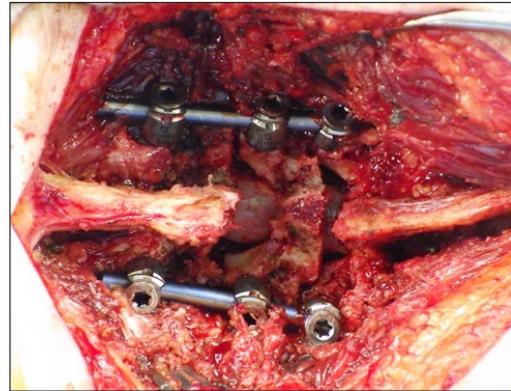
販売名：レボシス-J
医療機器承認番号：30300BZX00095000
承認年月日：令和3年3月29日
一般的名称：吸収性骨再生用材料

症 例 写 真

初診時所見 (術前XP)



手術所見 (人工骨移植前)

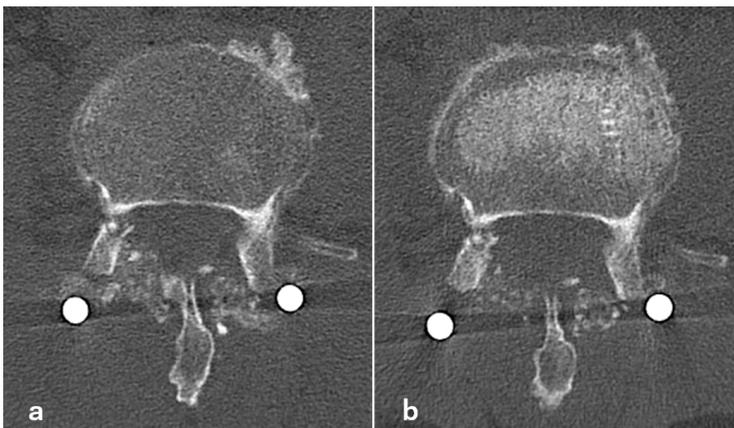


L3-5椎弓間にReBOSSIS-J 0.5gと局所骨を移植



手術は左からのL3/4/5 LLIFを施行、後方はL3/4/5除圧と両側椎間関節切除を行い、L3-5の後方固定術を施行。脊柱管にも落ち込まないように母床を作り、その上に粉碎した局所骨を置くことで十分量の自家骨移植が可能となっている。

術後のCT (a:術直後 b:術後3か月後)



移植骨が落ち込んでいないことが確認でき、術後3か月でも維持されている。

販売業者

製造販売業者

ORTHOREBIRTH株式会社

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央15-3
TEL (045) 532-3650 FAX (045) 532-3691

販売名：レボシス-J
医療機器承認番号：30300BZX00095000
承認年月日：令和3年3月29日
一般的名称：吸収性骨再生用材料



資材番号 L122-01